

傀儡に墮ちた

円卓の女戦士





ネフェリという女を探し出し
この薬を飲ませるのだ

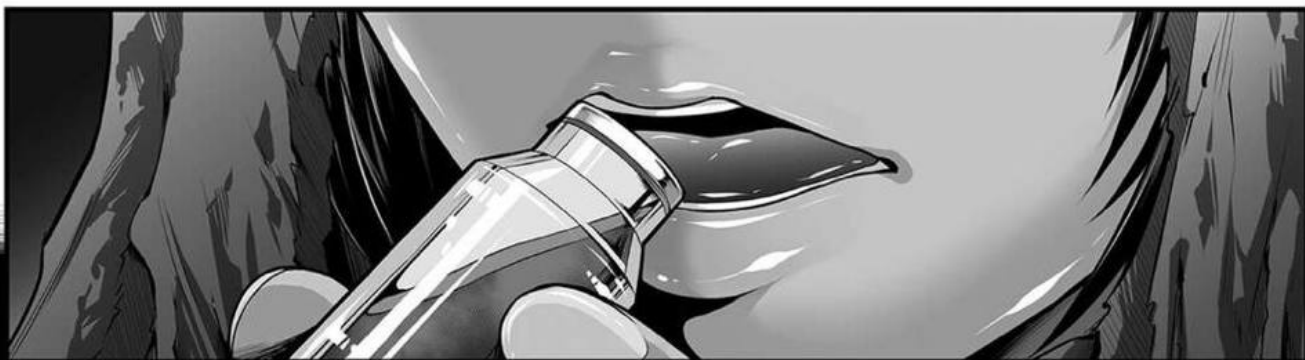


その位のことなら
君にも出来るだろう？



……これは薬か？

ああ、今の私には
相応しいかもしれんな

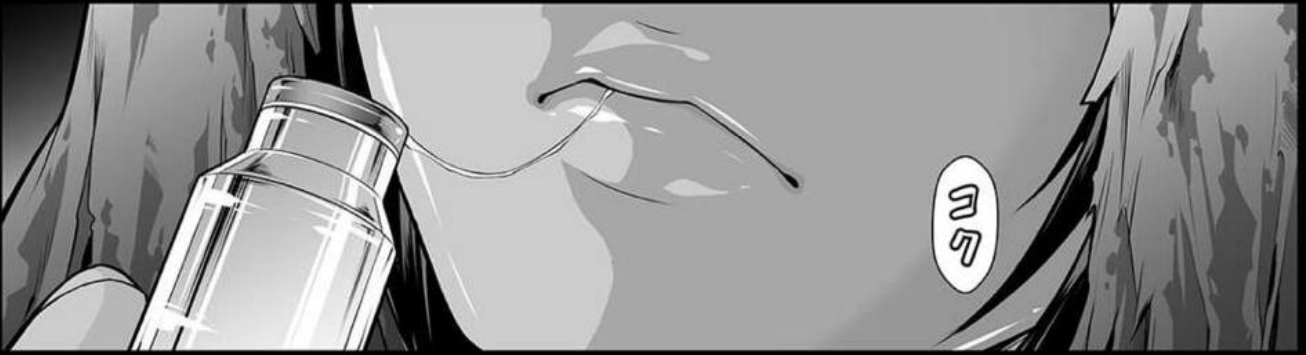


私はネフェリール
お前と同じ穢せ人
戦士だ



誇れ、お前は
よい戦士だった

ただ主を誤っただけだ
：風と共に逝くがよい
遥かなる頂に



その時は私を呼ぶがよい
あれは風を汚しすぎる

もしお前が
ゴドリックに
挑むのなら



それに
とても…

こんなにも
甘いものなのだ





とても



私はどうして
この場所に来た？



う…あ…

ここは…どこだ？





そしてこの男は
何者だ？

蛮族らしい器だ
知性は微塵も感じられないが
筋肉は鋼のごとく鍛えられておる

生臭い……
薄汚く醜い風の
臭いがする

たまらなく不快な男だ

だが……
この男の言葉は……

良いだろう
利用してやろう
遂に英雄の使役が
叶うかもしれん

抗えぬ程に
……甘い

経過は順調だろう
魂を抜かずに傀儡として
機能している

武力に非常に長けた器だ
英雄としての素質は
十分であろう





クッ



ドサ



ひとつ気がかりなのは
あの器が快楽に弱すぎる事だ



うっ

うっ

精薬の効果に間違いはない
もしあの女が英雄に足る魂を
持っているのならば問題は
ないはずだが……



ブル

チヨロロ

ブル

ブル

ブル

ブル



日に日に戦闘の成果が
落ちていく

それになんだコレは



命令をこなしてくる度に
このザマだ これではただの
盛りのついた牝ではないか

精葉の精製に問題があったか？
いや……やはりこの女に
期待しすぎたか……

ドローレス以上の器であると
確信していたのだがな

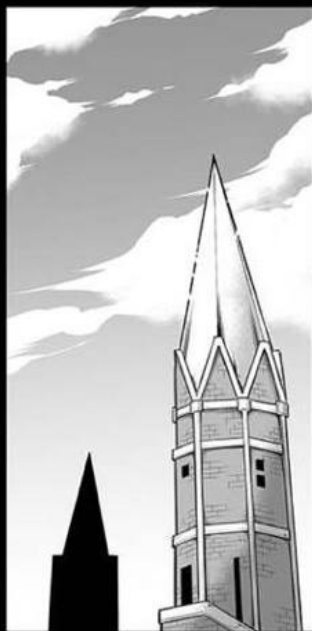


蛮族の硬い肉体など
抱くにも値せぬ代物だろうが……
この有様では他に使い道もあるまい



肉壺の感触は非常に良い
あの出来損ないの指巫女を
遙かに凌駕しているではないか







どうやらお前は
娼婦としての才に
恵まれたようだ



もうペニスを締め付ける
力も残っておらぬか
だが非常に素晴らしい
肉壺であったぞ



やはりネフェリは肉奴として
利用する事にする
残念ではあるが傀儡の特徴を
伸ばしてやるのも主の務めであろう

早速肉体に呪術を施して
肉奴としての完成度を
高めていく事にする





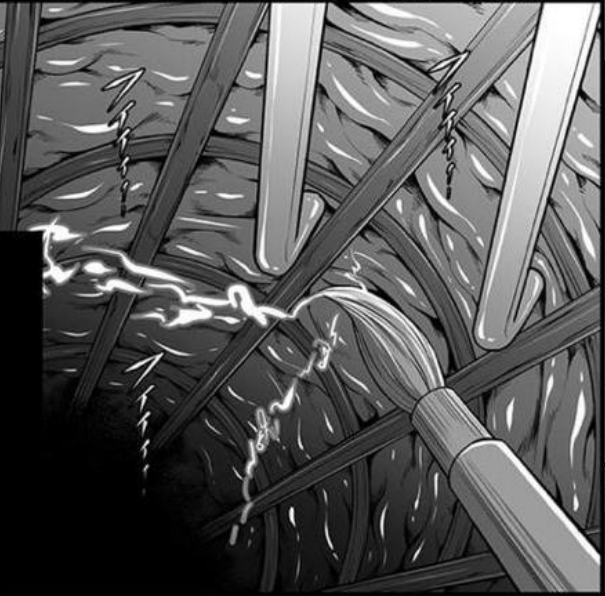
魂が入った器に施すのは初めてだが……はたしてどのような影響があるものか

当初の目的とは違うが貴重な知見を得られそうである



肉ヒダに隙間無く呪印を施していく

こうする事で肉壺はペニス悦ばせる事に特化した素晴らしい物へ変貌する



呪術の肉体への定着が非常に早い器の肉奴としての素質ゆえか



想像以上の仕上がりだ
肉玩具としては
最高のものであろう

蛮族の女の肉体などと侮っていたが
これほどの肉奴になろうとは





自らの官能に従い
仕込んでもいない口での奉仕も
進んで行使する
まさに肉奴の申し子よ



それならば主人として
この卑しい肉奴の期待に
応えてやらねばなるまい

んは♡

ちゅぽ



魂への影響は計り知れないが
英雄になれぬ凡庸な戦士として死ぬより
このセルプスの肉奴として寵愛を
受けながら壊れる方が遙かに幸福であろう



この女には
本来肉壺にしか施さない呪術を
全身にくまなく施す事にする





胸

足

臍

耳



全身の皮膚にくまなく
呪術を施した

魂を抜かなければ
体中どこを触れられようと
絶頂できる幸福な肉体に
変貌したことだろう

歩くだけでも足裏で
絶頂を迎える事ができる
素晴らしい肉体だ

エロ...



言葉を発する事を許可する
肉奴の最高傑作になった感想を
聞かせよ



小生意気な事をほざきおるから
言葉を封じていたが
素晴らしい体へ生まれ変わった
感想を語らせるのも一興か



私の体に何をした……
貴様は下衆だ！
決して許しはしない！



私は無限の幸福に
満たされていくのだ



貴様に体を弄られれば
弄られるほどに

だが何故だ？



これが…♡私の♡導き♡♡

そうだ その悦楽こそ 貴様の導きだ

快楽に身を任せ 導かれるままに達するがよい



しあわせ♡…の♡頂き…♡まで♡♡♡



連れて♡行か…れる♡♡

よかろう 貴様に
祝福を与えてやろう





始まったようだな

絶頂による筋肉の収縮で
再び絶頂する
その連鎖が無限に続いてゆく

絶頂の感覚はどんとどんと
短くなってゆき――



魂の許す限界の幸福へと
辿り着く





逝ったか……
やはり色欲の強いこの魂では
これ程の幸福に耐えられなんだか

……いや 色欲の強さ故に
快楽で逝く事を渴望した魂の
末路か……
この女の魂が真に求めた物は
至高の肉欲だったという事だ



こうなってしまうえば他と変わらん
ただの傀儡よ……だが
精処理用の肉玩具としては
とても良い出来だ
毎晩愛でてやろうではないか

か
ク



「ネフェリが
どうなったか」
だと？



そもそも君はあの薬を
本当にネフェリに
飲ませたのかね？
間違えたのではあるまいな？

この弟子は知性こそ無いが
戦いに優れ行動力がある
何より傀儡への理解と
情熱を持っている

秘密の研究室への出入りを
許可しても良い程度には
期待できる人材だ

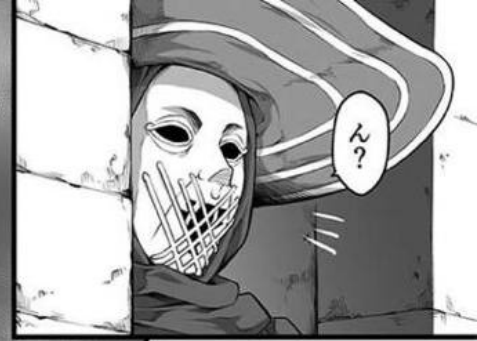
そうだな……
あの傀儡を君にやるわけには
いかないが鑑賞する事くらいは
許可しよう



そう言えば今日は弟子が
私の研究室を見学していたな
なにぶんがさつな女だ 部屋を
汚していないとよいのだが……



私の作品を存分に
堪能してくれたまえ



これはこれは



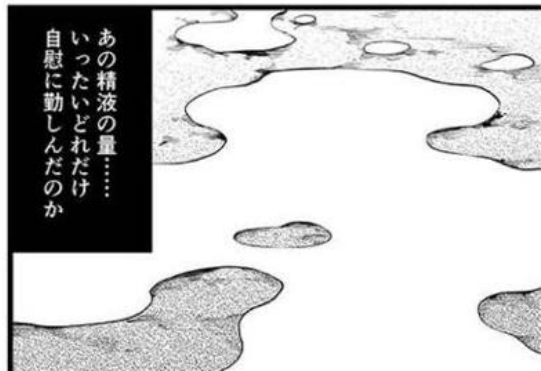
女の傀儡ばかり
ねだると思ったが
……なるほど
あのような肉体で
あったか



魂の抜けた空の傀儡に
これほど劣情を抱くことが
出来るとは……



いや……むしろ魂無き
傀儡でなくては
充足を得られぬよう
なってしまったか？





しかもネフェリは共にデミゴットと戦った戦友だと言うではないか……むしろ戦友の傀儡だからこそより強い情欲を覚えているのか？

フフフフ
まったく君は優秀だよ
傀儡を愛する事は
傀儡師にとってこの上ない
才能だ

だが愛し方を理解していない
劣情の瞳で見つめ
匂いを嗅ぎ
自らのペニスを慰めても
傀儡に愛を感じさせることは
出来ない



交わりが必要なのだ
弟子よ
童貞ゆえの未熟さで
見えぬのであろう
教えなければならぬ事が
山ほどありそうだな

女の肉体の本当の楽しみ方を
教授してやろう…もう二度と
戻れぬほどの享楽を……

そして君に話そう
私の大いなる秘め事を……



傀儡に堕ちた円卓の女戦士

発行 YokohamaJunky

発行者 魔狩十織

web <http://yokohamajunky.com/>

email mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及び各種設定も一切関係ありません
尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です



YOKO HAMAMIA JUNIKY